

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】☐H23（A－Ⅱ）☐H24（Ⅰ）☒H24（Ⅱ）【AIMS】☐H25／ 名古屋 大学

■プログラム名

ASEAN 地域発展のための次世代国際協カリーダー養成プログラム

――以下、タイに特化した内容を主に記載ください。――

■相手大学・機関（国名も記載ください）

チュラロンコン大学(タイ)

■主な活動内容（概要）

上記大学と平成 25 年度から短期(約 1 週間、単位なし)・長期(6 ヶ月、単位互換)の交換留学を実施している。ただし、平成 25 年度に関しては、タイの政情不安により残念ながら短期派遣を見送った。

本受入れプログラムの特徴としては、東海地方の製造業における研修・見学（短期）やインターンシップ（長期）で「日本のモノづくり」と「日本企業のビジネスモデル」を体感できるプログラムとなっていることなどが挙げられる。

■プログラムの現状・課題、成功事例

(単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください)

現状・課題

上述の通り、平成 25 年度に関しては、タイの政情不安により残念ながら短期派遣を見送った。

成功事例

【危機管理体制】

派遣先大学であるチュラロンコン大学や、現地日系企業日本人会との連携による危機管理体制を整備することができた。例えば、バンコクで大規模な反政府デモが断続的に続いていたことを受け、チュラロンコン大学に長期派遣生として在籍していた本学学生の安否を同大学の教員に確認してもらった。また、同学生は現地日系企業の日本人会ネットワークを利用し、日本大使館からの安全情報の配信など適宜受け、安全確保に努めることができた。今後も両者との連携を強化していく。

【単位互換】

長期受入れの留学生が本学で取得した単位が無事にチュラロンコン大学で互換され、その互換された単位によって帰国直後の学位取得がなかった。